



平成31年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年9月5日

上場会社名 株式会社東京楽天地 上場取引所 東
 コード番号 8842 URL <http://www.rakutenchi.co.jp>
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 中川 敬
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理担当 (氏名) 岡村 一 (TEL) 03(3631)5195
 四半期報告書提出予定日 平成30年9月13日 配当支払開始予定日 平成30年10月12日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年1月期第2四半期の連結業績(平成30年2月1日～平成30年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年1月期第2四半期	4,750	△11.7	505	△43.9	603	△39.4	178	△74.2
30年1月期第2四半期	5,380	1.7	900	34.4	995	49.2	690	64.6

(注) 包括利益 31年1月期第2四半期 △175百万円(—%) 30年1月期第2四半期 1,418百万円(316.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年1月期第2四半期	29.77	—
30年1月期第2四半期	115.35	—

当社は、平成29年8月1日を効力発生日として普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年1月期第2四半期	44,279	29,934	67.6	5,005.04
30年1月期	47,000	30,291	64.4	5,064.39

(参考) 自己資本 31年1月期第2四半期 29,934百万円 30年1月期 30,291百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年1月期	—	3.00	—	30.00	—
31年1月期	—	30.00	—	—	—
31年1月期(予想)	—	—	—	30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成29年8月1日を効力発生日として普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。なお、株式併合後の基準で換算した平成30年1月期の1株当たり年間配当額は60円となります。

3. 平成31年1月期の連結業績予想(平成30年2月1日～平成31年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,500	△9.8	800	△50.5	950	△46.3	250	△80.5	41.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年1月期2Q	6,511,218株	30年1月期	6,511,218株
② 期末自己株式数	31年1月期2Q	530,299株	30年1月期	529,878株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	31年1月期2Q	5,981,183株	30年1月期2Q	5,982,341株

(注)前連結会計年度の期首に株式併合が行われたと仮定し、期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の各種政策の効果を背景に、雇用・所得環境は着実に改善し、個人消費も持ち直しの動きが見られるなど、景気は緩やかな回復基調が続いております。しかしながら、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響が懸念されるなど、先行きは不透明な状況で推移いたしました。

このような状況下にあつて、売上高は4,750百万円と前年同期に比べ629百万円(11.7%)の減収となり、営業利益は505百万円と前年同期に比べ395百万円(43.9%)の減益、経常利益は603百万円と前年同期に比べ392百万円(39.4%)の減益、親会社株主に帰属する四半期純利益は、楽天地ビルリニューアル工事に係る撤去費用等を特別損失に計上したこともあり、178百万円と前年同期に比べ511百万円(74.2%)の減益となりました。

報告セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

(不動産賃貸関連事業)

不動産賃貸事業では、楽天地ダービービルをはじめ各賃貸ビルは堅調に稼働しましたが、楽天地ビルにおいて、主要テナントの入れ替えにあたり賃貸収入が一時的に減少したため、売上高は前年同期を下回りました。なお、昨年秋より実施している楽天地ビルリニューアル工事については、旧L I V I N錦糸町店地下1階部分の改装工事が完了し、本年9月6日に「西友錦糸町店」としてオープンいたします。また、地上1階から7階部分は、来年春の株式会社パルコが運営する商業施設開業に向けて順調に改装工事が進んでおります。

ビルメンテナンス事業では、厳しい入札競争のもと、一部案件で増額受注するなど積極的な営業活動を実施し、売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、不動産賃貸関連事業の売上高は2,878百万円と前年同期に比べ252百万円(8.1%)の減収となり、セグメント利益は1,022百万円と前年同期に比べ285百万円(21.9%)の減益となりました。

(娯楽サービス関連事業)

映画興行事業では、「名探偵コナン ゼロの執行人」「グレイテスト・ショーマン」「リメンバー・ミー」等の作品やライブビューイングは好稼働しましたが、ヒット作が多かった前年には及ばなかったため、売上高は前年同期を下回りました。なお、楽天地シネマズ錦糸町は本年7月2日から全面改修工事のため休館しており、11月中旬に「TOHOシネマズ錦糸町 楽天地」としてオープンいたします。

温浴事業では、「天然温泉 楽天地スパ」において、楽天地ビルリニューアル工事の影響によりオールナイト利用客が減少したこと、また、「楽天地天然温泉 法典の湯」において、競合店との競争激化などにより来客数が伸び悩み、売上高は前年同期を下回りました。

フットサル事業では、「楽天地フットサルコート錦糸町」は、本年4月1日にリニューアルオープンし好調に稼働しておりますが、工事のため約2か月間休業したこと、また、「楽天地フットサルコート調布」を2月28日に閉店したことにより、売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、娯楽サービス関連事業の売上高は1,366百万円と前年同期に比べ292百万円(17.6%)の減収となり、セグメント利益は70百万円と前年同期に比べ146百万円(67.7%)の減益となりました。

(飲食・販売事業)

飲食事業では、前期に「ドトールコーヒーショップ 船橋北口店」および「同 市川総合病院店」を閉店したことにより、売上高は前年同期を下回りました。

販売事業では、「まるごとにつぼん」の直営店において、売上の拡大に向けた魅力的な店づくりに注力する一方、海外からのお客様に対する取り組みをはじめとした各種販促活動を通じて、収益の改善に努めましたが、売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、飲食・販売事業の売上高は504百万円と前年同期に比べ84百万円(14.3%)の減収となり、セグメント損失は1百万円(前年同期はセグメント利益6百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第2四半期連結会計期間末における総資産は44,279百万円と前連結会計年度末に比べ2,721百万円の減少となりました。これは主として、短期受入保証金の償還および借入金の返済により現金及び預金が減少したこと、および有形固定資産の減価償却がすすんだことによるものであります。

② 負債

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は14,344百万円と前連結会計年度末に比べ2,364百万円の減少となりました。これは主として、短期受入保証金を償還したこと、および借入金を返済したことによるものであります。

③ 純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は29,934百万円と前連結会計年度末に比べ357百万円の減少となりました。これは主として、その他有価証券評価差額金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

不動産賃貸関連事業は、楽天地ダービービル、東京楽天地浅草ビルをはじめ各賃貸ビルは引き続き堅調に稼働しております。一方、楽天地ビルにおいては、昨年秋より主要テナントの入れ替えにあたり大規模リニューアル工事を実施しているため、収益の大幅減少要因となっておりますが、地下1階部分は本年9月6日に「西友錦糸町店」としてオープンいたします。ビルメンテナンス事業では、人手不足や人件費の上昇傾向がある中、請負金額の改定に向けた取り組みを進めるなど収益率の改善に努める所存であります。以上により、セグメント全体の売上高およびセグメント利益は前期を下回る見込みであります。

娯楽サービス関連事業は、映画興行事業では、下期には、「ファンタスティック・ビーストと黒い魔法使いの誕生」「シュガー・ラッシュ：オンライン」等の期待作品がありますが、ヒット作の多かった前期には及ばず、また、「楽天地シネマズ錦糸町」が全面改修工事のため休館していることもあり前期を下回る見込みであります。温浴事業では、「天然温泉 楽天地スパ」においては、楽天地ビルリニューアル工事の影響により利用客が減少していること、また、「楽天地天然温泉 法典の湯」においては、競合店との競争激化などにより、前期を下回る見込みであります。以上により、セグメント全体の売上高およびセグメント利益は前期を下回る見込みであります。

飲食・販売事業は、飲食事業においては、前期にドトールコーヒーショップ2店舗を閉店したことにより、売上高は前期を下回る見込みであります。販売事業では、東京楽天地浅草ビルの「まるごとにつぼん」の直営店においては、売上の拡大に向けた魅力的な店づくりに注力するとともに、運営コストの削減をはかるなど、収益の確保に努めてまいります。以上により、セグメント全体の売上高およびセグメント利益は前期を下回る見込みであります。

以上により、通期の連結業績は、売上高9,500百万円（前期比9.8%減）、営業利益800百万円（前期比50.5%減）、経常利益950百万円（前期比46.3%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は、楽天地ビルリニューアル工事に係る撤去費用等を特別損失に計上することもあり、250百万円（前期比80.5%減）となる見込みであります。

(31年1月期 報告セグメントごとの通期業績予想)

1. 外部顧客への売上高

	不動産賃貸関連事業	娯楽サービス関連事業	飲食・販売事業
通期予想(百万円)	5,640	2,855	1,003
前期実績(百万円)	6,270	3,107	1,152
対前期増減率(%)	△10.0	△8.1	△12.9

2. セグメント利益

	不動産賃貸関連事業	娯楽サービス関連事業	飲食・販売事業
通期予想(百万円)	1,861	167	△5
前期実績(百万円)	2,559	299	8
対前期増減率(%)	△27.3	△44.1	—

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,317,946	4,141,554
売掛金	245,835	342,512
リース投資資産	745,997	751,931
有価証券	100,000	100,000
その他	357,159	349,188
貸倒引当金	△39	△67
流動資産合計	7,766,900	5,685,119
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	21,966,246	21,416,308
土地	5,634,648	5,634,648
建設仮勘定	2,309,364	2,784,979
その他(純額)	660,879	624,901
有形固定資産合計	30,571,138	30,460,838
無形固定資産		
投資その他の資産	299,702	306,473
投資有価証券	7,661,116	7,214,056
その他	701,823	612,878
投資その他の資産合計	8,362,940	7,826,934
固定資産合計	39,233,781	38,594,246
資産合計	47,000,682	44,279,366

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年7月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	366,258	366,348
1年内返済予定の長期借入金	1,704,000	1,704,000
未払法人税等	360,651	80,918
賞与引当金	47,387	45,475
その他	2,797,470	1,581,576
流動負債合計	5,275,767	3,778,318
固定負債		
長期借入金	7,926,500	7,074,500
退職給付に係る負債	680,865	676,185
資産除去債務	521,118	519,029
受入保証金	1,430,250	1,629,473
その他	874,314	667,115
固定負債合計	11,433,049	10,566,303
負債合計	16,708,817	14,344,622
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,046,035	3,046,035
資本剰余金	3,378,953	3,378,953
利益剰余金	23,381,598	23,380,239
自己株式	△1,994,383	△1,996,735
株主資本合計	27,812,204	27,808,492
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,479,660	2,126,251
その他の包括利益累計額合計	2,479,660	2,126,251
純資産合計	30,291,864	29,934,743
負債純資産合計	47,000,682	44,279,366

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年7月31日)
売上高	5,380,132	4,750,575
売上原価	3,799,312	3,625,961
売上総利益	1,580,819	1,124,614
販売費及び一般管理費	680,515	619,466
営業利益	900,304	505,147
営業外収益		
受取利息	21	28
受取配当金	47,229	47,683
持分法による投資利益	73,700	62,322
資産除去債務戻入益	—	17,700
その他	9,172	19,511
営業外収益合計	130,123	147,245
営業外費用		
支払利息	20,821	21,799
固定資産除却損	6,018	21,418
その他	7,763	5,532
営業外費用合計	34,604	48,750
経常利益	995,824	603,642
特別損失		
減損損失	—	18,525
リニューアル関連撤去費用	—	304,210
特別損失合計	—	322,735
税金等調整前四半期純利益	995,824	280,907
法人税等	305,763	102,826
四半期純利益	690,060	178,080
親会社株主に帰属する四半期純利益	690,060	178,080

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年7月31日)
四半期純利益	690,060	178,080
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	728,401	△353,409
その他の包括利益合計	728,401	△353,409
四半期包括利益	1,418,462	△175,328
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,418,462	△175,328
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成29年2月1日 至 平成29年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

	報告セグメント				調整額 (千円) (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (千円) (注2)
	不動産賃貸 関連事業 (千円)	娯楽サービス 関連事業 (千円)	飲食・販売 事業 (千円)	計 (千円)		
売上高						
外部顧客への売上高	3,131,554	1,659,627	588,950	5,380,132	—	5,380,132
セグメント間の内部 売上高または振替高	192,941	1,024	536	194,501	△194,501	—
計	3,324,495	1,660,651	589,487	5,574,634	△194,501	5,380,132
セグメント利益	1,308,083	216,758	6,664	1,531,506	△631,202	900,304

(注)1 セグメント利益の調整額△631,202千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△628,097千円、セグメント間取引消去△3,104千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成30年2月1日 至 平成30年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

	報告セグメント				調整額 (千円) (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (千円) (注2)
	不動産賃貸 関連事業 (千円)	娯楽サービス 関連事業 (千円)	飲食・販売 事業 (千円)	計 (千円)		
売上高						
外部顧客への売上高	2,878,946	1,366,867	504,761	4,750,575	—	4,750,575
セグメント間の内部 売上高または振替高	174,267	1,020	626	175,913	△175,913	—
計	3,053,213	1,367,887	505,387	4,926,489	△175,913	4,750,575
セグメント利益または損失(△)	1,022,165	70,037	△1,707	1,090,495	△585,347	505,147

(注)1 セグメント利益または損失の調整額△585,347千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△574,446千円、セグメント間取引消去△10,901千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益または損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

「飲食・販売事業」において、当初の収益見込みを下回ることとなった飲食店舗(千葉県市川市)について、減損損失を認識しました。当該減損損失の計上額は18,525千円であります。